

少林寺拳法部

設立	1973年4月
部長	田中 敏行(物理情報工学科)
現在の部員数	50人(2013年4月現在)
OB/OG 会代表者	市毛 正行
OB/OG 会会員数	280人
部誌	10、15、20、25、30、35、40周年
URL	http://www.keiosrjk-r.com/

創部当時の思い出

理工学部少林寺拳法部は、「生涯部員」「部員一体」という哲学で運営されている。

1973年(昭和48年)秋、市毛(33期:初代主将)、佐々木(33期:初代副将)、奥野(34期:2代主将)の3名が、当時、電気工学科博士課程に在学中の須田敏和(27期)の誘いを受け、矢上体育館で稽古を始めたのが理工学部での少林寺拳法の始まりである。少林寺拳法部では、〇〇代という表現方法をとっているが、初代は理工学部の33期に相当する。

その後、拳法映画のブルースリーの人気を反映し続々と部員が増え、初代だけでも20名程が集まった。故栗田初代部長が少林寺拳法部の活動を大変理解し、かつ支援し、学部内で機会あるごとに当部をPRしたので、創成期における当部のプ

レゼンスは新興運動部と思えないほど上がった。

創部当時は、日本中に学園紛争が吹き荒れ、慶應義塾大学もその渦の中に巻き込まれた。このとき、身の危険も省みず、教職員と一緒に協力してこの危機を救ったのも、初代を中心とする部員たちであったことを栗田部長は深く脳裏に刻み、いざというときの体育会メンバーの存在がいかに大切であるかを認識していた。

初めての少林寺拳法の本山(香川県)合宿では、まだ全員が茶帯であった。ひどい風邪が流行し、全員が最後まで合宿を終了できるかが心配されたが、この合宿で多くの黒帯が誕生した。

今は亡き初代館長にしっかりと手を握られて「立派な部を作るようによろしく頼む」と言われたことが今でも思い出される。



初代練習風景 矢上キャンパス



初代練習風景 矢上の坂



初代本山合宿記念写真



本山合宿にて黒帯誕生

小金井時代

部の真のルーツは、小金井時代にさかのぼるのかも知れない。1968年(昭和43年)当時の電気工学科栗田研究室において、4年生の門間(27期：当時3段)と須田(27期)が、運動不足解消を目的として少林寺拳法の基本を始めた。門間が卒業後、間もなく赤羽根同院(道場)を開設したところ、須田は1969年に入門し修行を積んだ。その後、支部長の資格を取得した須田が、前述のように工学部少林寺拳法部を設立した。

創部10周年時代

我が部を語る上で一つの大きな転換点が創立10周年記念時である。工学部体育会として学問にしっかり取り組みつつ、週3日の活動だけではなく、在学中に有段者になることや、対校試合などへの出場など、具体的な目標が設定された。

(1) 上野先生監督就任

9代目の黒田主将、中村主務の尽力により、本山から上野先生を招聘し監督に迎えたところから、我が部の飛躍の第一歩が始まった。少林寺拳法本山において山門衆として開祖とともに修業を積んでいた上野先生指導のもと、淵(10代主将)を中心としての改革が始まった。その後発展は、上野先生の指導によるものであると言っても過言ではない。

上野先生による指導に伴い、しっかりした練習をすることにより、頑張れば卒業までに3段が取れるようになった。当時は3段以上になると胸章の色が赤い色の卍になった。少林寺を修行する多くの拳士の目標は“赤卍”であり。このとき、学



上野先生と夏合宿 1984

生の具体的な目標の一つができた。

(2) 学生連盟加盟

(全国大会、関東大会出場)

学連(学生連盟)加盟に伴い、体育会少林寺拳法部をはじめとする他大学体育会が出場する関東大会・全国大会(日本武道館)に出場が可能となった。

初めての日本武道館での演武は、非常に緊張したのを今でもはっきりと覚えている。翌年の全国大会では、11代花岡+重田が見事に予選を通過し、本戦線出場を達成した。学連への加盟により、学生の具体的な目標の二つ目が確立した。これは我が部の歴史で大きな転換点である。

(3) 10周年記念開催・OB会設立

10周年を迎えるにあたり、前年度から市毛OB会長を中心として、OB会の体制を確立した。記念すべき10周年は、銀座の交詢社にて盛大に開催された。それ以降は5年ごとに記念祭を開催している。



全国大会初出場の黒田+淵 1982年



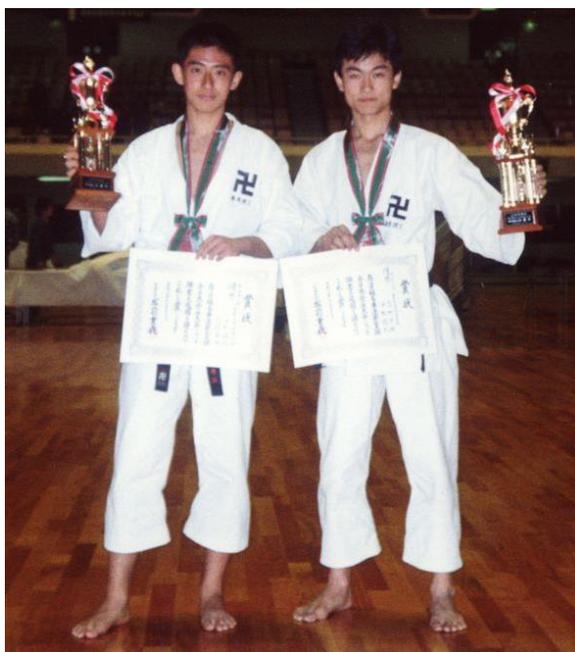
創立10周年記念祭(市毛OB会長、淵10代)
1982年



15代卒業演武



18代、関東学生大会 OB 杯受賞 1990年



中拳士以上の部で最優秀1位(志村+平松)
1990年



19代、全国大会女子衆敵で1位 1992年



20代、関東学生 OB 杯 2 回目の受賞
1992年



全国大会乱捕の部女子優勝(1位) 2010年
左 高橋部長、中央 平尾選手

部の全盛期と苦難期

(1) 部の1次全盛期

約40年の歴史の中、大会の成績、部員数共に最も活発であったのは、20代前後であった。

18代の志村主将時には関東学生少林寺拳法大会において、関東OB杯を受賞(最も伸び盛りの部に対して授与される)した。さらに関東大会では、中拳士以上組演部(最高峰の部)において志村+

平松組が最優秀(1位)を獲得した。

2年後の20代は、関東大会で総合2位の成績を上げ、2回目の関東OB杯を受賞した。さらに秋の全国大会では、女子衆敵の部で全国1位を達成し、19代の津布久、森、秋本、飯塚に対し、小泉体育賞が卒業式で授与された。

(2) 部の苦難期

40年にわたる我が部の歴史は良いことばかりではなかった。理工学部の変革期に約3年間体育館が使用できない時期があった。活動場所を奪われた部員たちは、12棟の教室を借りて細々とした活動を続けた。そうした中で部員が減少し、29代と32代では部員0名になり、その他の代も数人という状況で、練習を数人で実施するのが普通という時代が続いた。この苦難を抜け出すきっかけは、5代目の監督小堤(20代)、31代塚田主将、34代主将の河崎君の時代の下田の合宿で、これが歴史的な変極点になったと思っている。

最近の現役部員の活動

最近の現役部員の状況

(1) 部員数 53名

- 1年：男 7名、女 5名
- 2年：男 11名、女 5名
- 3年：男 9名、女 7名
- 4年：男 6名、女 3名

(2) 活動場所 矢上体育館

(3) 活動曜日・時間

月・木・金：18：30～20：30

東日本大震災ボランティア活動

2011年3月11日に発生した東日本大震災のボ

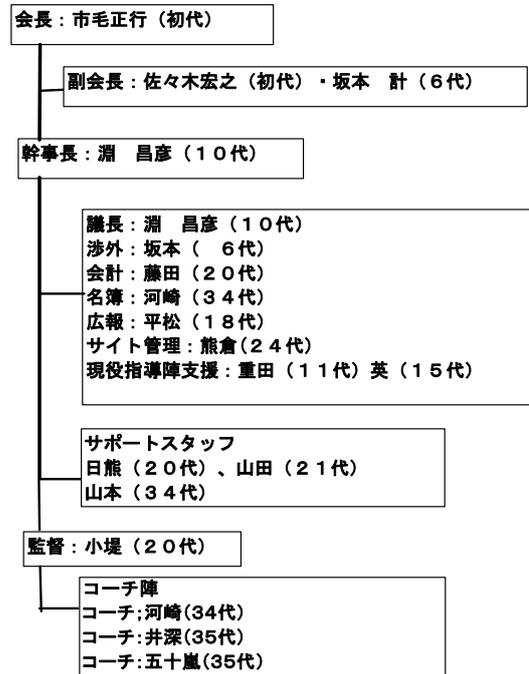


陸前高田にてガレキ撤去 2012年5月

ランティア活動をOB現役共同で実施した。多くのOB会員から資金援助を受け、現役はボランティア活動を継続的に実施している。

理工学部少林寺拳法部三田会

理工学部少林寺拳法部三田会体制



慶應義塾大学 理工学部体育会 少林寺拳法部の歴史

西暦	代	主将	部員数	歴 史
1973	初代	市毛	22	部開設・本山合宿参加、学生運動盛ん、ブルースリー人気で部員増加
1974	2	奥野	9	有段者誕生、三田祭演武会参加
1975	3	星野	4	長野スキー場にて夏合宿
1976	4	上村	5	他学部部員参加
1977	5	福田	7	職業訓練大学校との交際始まる
1978	6	北口	10	春・夏2回本山合宿を実施、須田先生アメリカに留学、門間先生が支部長を代行
1979	7	平沢	3	医学部部員活躍
1980	8	磯田	5	三段拳士誕生(坂本・大橋) 工学部運動会リレーで少林寺優勝
1981	9	黒田	6	上野先生監督に就任依頼、長野で合宿、よく走った合宿
1982	10	淵	10	学生連盟に加盟・関東大会、全国大会初出場(黒田・淵)、OB会設立・指導者講習会初参加
1983	11	花岡	5	全国大会予選通過(花岡・重田)、10周年記念祭(交詢社にて実施)
1984	12	桐谷	5	理工系リーグにて蒲原、乱捕で暴れる、日本女子大との合同練習始まる、三軒茶屋道院に参加
1985	13	吉岡	5	高田：理工体連盟委員長、日本女子大と合同練習参加、3人掛けで全国大会予選通過、級拳士全国大会入賞
1986	14	依田	4	いちご会発足、少拳士全国大会で入賞 衆敵闘法、全国大会で2年連続予選通過
1987	15	英	11	関東学生大会で衆敵闘法、最優秀賞、少拳士全国大会で入賞、衆敵闘法全国大会で入賞、准拳士全国大会で入賞
1988	16	安藤	11	宮本：理工体連盟委員長を務める、部室棟建設、上智大学と合同練習開催(女性のための護身術がテーマ) 創立15周年開催
1989	17	八鍬	7	柳川：関東学生連盟副委員長を務める、八鍬：理工学部体育会連盟委員長
1990	18	志村	11	関東学生大会中拳士組演武で志村・平松組最優秀、関東学生大会でOB杯受賞、杉山：関東学生連盟副委員長
1991	19	大木	11	小泉体育賞受賞・全国大会最優秀受賞 女子衆敵(秋本・飯塚・森・津布久)
1992	20	山ヶ城	14	関東大会にて30周年記念杯受賞・OB杯受賞 立野・林 三田祭にて格闘技慶應一決定戦参戦
1993	21	東郷	16	東郷-財津、東郷-秋山演武で全日本・関東で賞を取りまくった
1994	22	及川	23	部員数が男子16人、女子6人の最大人数の代となった、岸本-内田：全日本大会3位
1995	23	貝瀬	10	奇数代は横のつながりの伝統を堅持
1996	24	熊倉	8	部内乱捕大会で熊倉主将優勝
1997	25	中村	8	理工系大会で1位～3位を独占、練習後に組み手の練習を重点化
1998	26	山田	6	体育館がなくなる。教室で練習、雑誌の取材を受けた
1999	27	山下	6	部員数が1年生0名、2年生1名の危機的状況になる 引き続き教室の硬い床で、机・椅子を片付け練習
2000	28	大森	1	新体育館完成、同時に1年生数名入部(30代) 練習法に工夫を施す
2001	29	大森	0	28代大森が2年間主将を務めた
2002	30	木村	4	部存続の危機が訪れるも、OBの協力により克服
2003	31	塚田	3	練習らしい練習ができるようになってきた
2004	32	塚田	0	31代塚田が2年間主将を務めた、下田にて春合宿
2005	33	河崎	1	
2006	34	河崎	3	1年生が8名入部 全国大会で級拳士が久々の予選突破
2007	35	井深	4	関東大会で男子准拳士と女子級拳士が久々の入賞 空国大会でも女子准拳士が入賞を果たす
2008	36	長岡	7	関東大会で富井-中込の女子准拳士が優秀賞 三大会連続の入賞 理工学部少林寺拳法部三田会として連合三田会に登録
2009	37	鬼塚	7	鬼塚他神奈川県大会優勝、全国大会出場
2010	38	飯野	6	全国大会にて平尾女子乱捕の部で見事優勝1位 小泉努力賞獲得
2011	39	松永	9	関東大会中拳士以上組演部優勝 日本大震災に伴い陸前高田ボランティア実施
2012	40	丸尾	16	関東大会男子団体演武予選通過、女子団体演武本戦出場 毬外男女組演部優勝
2013	41	立道	17	
2014	42		9	
2015	43		9	

慶應義塾大学工学部体育会少林寺拳法部の歴史

